

タイトル	縫いぐるみ・ブラックシアター発表表現「アンパンマンの誕生日会」 「創作発表会」発表援助・運営演習
作成者(著者)	堀尾昇平
作成者(ヨミ)	ホリオ, ショウヘイ
出版社・団体	下関短期大学保育学科
出版社・団体(ヨミ)	シモノセキタンキダイガクホイクガッカ
Nii資料タイプ(区分)	研究報告書(教育実践記録等)
ISSN	—
掲載誌名	第30回 下関短期大学保育学科 創作発表会研究発表要旨集
巻・号	—
開始ページ	12
終了ページ	13
発行日	2017/12/9

下関短期大学
〒750-8508 山口県下関市桜山町1-1

Copyright©2017 Shimonoseki Junior College All rights Reserved.

縫いぐるみ・ブラックシアター発表表現「アンパンマンの誕生日会」

「創作発表会」発表援助・運営演習

縫いぐるみ・ブラックシアターゼミナール 下関短期大学 保育学科 (担当教員: 堀尾昇平)
2年 清水梨紗、竹原里香、西志織、橋田実佳、野村采加、兵庫綺聡、森本鈴花、山本彩香
1年 河野麗奈、國賀芽依、畠中妃奈子、舟木美邑、細田千春、矢田尚

1 研究目的

【縫いぐるみ・ブラックシアター発表】

本ゼミナールの舞台発表は、限られた時間の中で子どもたちが心を惹かれ、楽しむことは何かを考えた結果、縫いぐるみ発表にブラックライトシアター（以下「ブラックシアター」と略記）表現を含む発表を作り上げることとした。

ブラックシアターは、会場を暗くしてブラックライト（紫外線蛍光灯）を使用した暗闇の中で、蛍光性の衣装やパネルを使用して演じる劇である。本ゼミナールでは、パネル（段ボール）に蛍光塗料を塗り、ブラックライトを当てることで独特の色彩が生まれることに注目した。演者は、全身を黒い服で身を包み暗闇と同化する事で、劇の世界観を邪魔することなくそのパネルを操作していくこととした。

子どもたちは成長の中で身近な人々と親しみ、関わりながら様々な対象へ興味や関心を深めていく。そして憧れを持ち見ている対象を、自身の中に取り入れたり、重ね合わせたりしていく。この対象は、初めは大人であることが多いが、やがて物語の主人公などにも広がっていくようになる。さらに、子どもたちは、そうした出会いから喜び驚きといった体験をすることを通して心の中に豊かなイメージを蓄積していく。

以上のことを考え、縫いぐるみとブラックシアターを組み合わせた発表表現を通して、子どもたちの好奇心や想像力を育み感動を共有することを目的とした。

【「創作発表会」発表援助・運営演習】

本ゼミナールでは、「創作発表会」における舞台発表の全体的な運営管理するための総合的な力を身に着けることも保育者として必要と考えた。従って、本ゼミナールで発表する「縫いぐるみ・ブラックシアター発表」をまとめるだけでなく、各ゼミナールが発表する幕間での発表表現の可能性、発表支援技術の基礎を学ぶことも研究目的とした。

2 研究方法および研究内容

上記目的を達成するために以下の順で活動を行った。

【縫いぐるみ・ブラックシアター発表】

- 1) 研究テーマの決定
- 2) 役割分担表・台本作成
- 3) 縫いぐるみ及びブラックシアターを使用した表現ができる舞台発表内容選
び・決定
- 4) 役割担当決定
 - ・縫いぐるみ発表担当
 - ・ブラックシアター発表担当
 - ・「創作発表会」発表援助・運営担当
- 5) 音楽等
 - ・ダンス曲の選曲、音響準備等
- 6) 練習方法（縫いぐるみ発表担当）
 - ①ダンス曲の練習
 - ②縫いぐるみを着ずに練習（動きの徹底）
 - ③縫いぐるみ着用・小道具等揃えて練習
- 7) ブラックシアター表現の作成
 - ①ブラックシアター表現部分の考察

②ブラックシアター、パネルの制作

ブラックシアターで使用するパネルは、遠くの客席からもよく見えるようにするため、大きい段ボールを何枚も使用して制作することとした。そのため、パネルを制作する最初の段階で大きさ、図案を決定する必要があった。また、修正することを極力避けるため、図案作成の段階で、修正をしっかりと繰り返したのちパネル制作に取り掛かった。

③パネル着色のための色の作成

パネル制作で一番時間がかかる作業が「色の作成」である。ブラックライトを当てて出る色は通常の可視光下で見える色と異なるため、何色もの塗料を混ぜて調整する必要がある。ブラックライトで見える色を通常見える色を考慮しながら作る作業であるため、大変時間がかかる作業である。

④練習方法（ブラックシアター発表担当）

暗闇の中で、大小のパネルを操作するため、立ち位置やパネルの置き位置が非常に重要である。試行錯誤を繰り返しながら、限定された時間と動きで演出できるようにした。

【「創作発表会」発表援助・運営演習】

1) 歓迎・パレード運営

「創作発表会」のプログラムは、午前：研究発表、午後：舞台発表（会場・シーモール内）だが、午前・午後の部の間の90分の合間に、シーモール内で、縫いぐるみを着た学生がパレードを行い、開催の広報を行うこととした。

2) プログラム全体の運営

舞台発表を行う各ゼミナールが使用する機材・照明・音響の確認・調整等を行う。会場設営に関する事を把握し、機材の確認等を行うことによって、本番の発表が円滑に行えるようにした。

3) 舞台発表における当日技術スタッフ

舞台発表の活動補助を行うこととした。具体的には、照明（会場内照明・舞台照明・ピンスポット照明）、音響（各ゼミナールで使用する音響：マイク設置・

CD・MD操作など）を行うこととした。

4) 各ゼミナール使用機材移動の援助

舞台発表を行うゼミナールが使用する大道具の送り出し・片付け整理補助を行い全体の運営をスムーズに行う。

5) 本ゼミナール舞台発表援助

縫いぐるみ・ブラックシアター発表の際の機材・音響・照明の確認・調整を行う。

3 考察・反省

本ゼミナール学生にとって、縫いぐるみ制作、ブラックシアター制作の両方とも初めてで解らないばかりであった。しかし、1年生が積極的に協力してくれたおかげで制作がスムーズに行うことができた。

縫いぐるみ発表では、縫いぐるみの動きと音響で使用する声をあわせるよう何度も練習した。またダンスについても全員で練習を何度も繰り返し揃えるように徹底した（写真1）。



写真1 縫いぐるみ発表 ダンス練習

子ども達の注意をひきつけ楽しんでもらうことができるように、ゆっくりとセリフを言い大きな動作で、分かり易い踊りにすることを心掛け練習に取り組んだ。

ブラックシアターでは見やすいように色塗りを徹底しスムーズに移動できるように練習に励んだ。

1・2年全員で話し合い、台本等をきめ協力して創り上げる事ができて良かったと思う。今回の経験を活かし、子どもの目線になって考え、次にすべき事は何か見通しを持って計画を立てることができるようになりたい。同時に、子どもの目線で物事を考えられる保育者を目指していきたい。